



TITLE:

京大広報 No. 272

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 272. 京大広報 1984, 272: 515-518

ISSUE DATE:

1984-05-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209413>

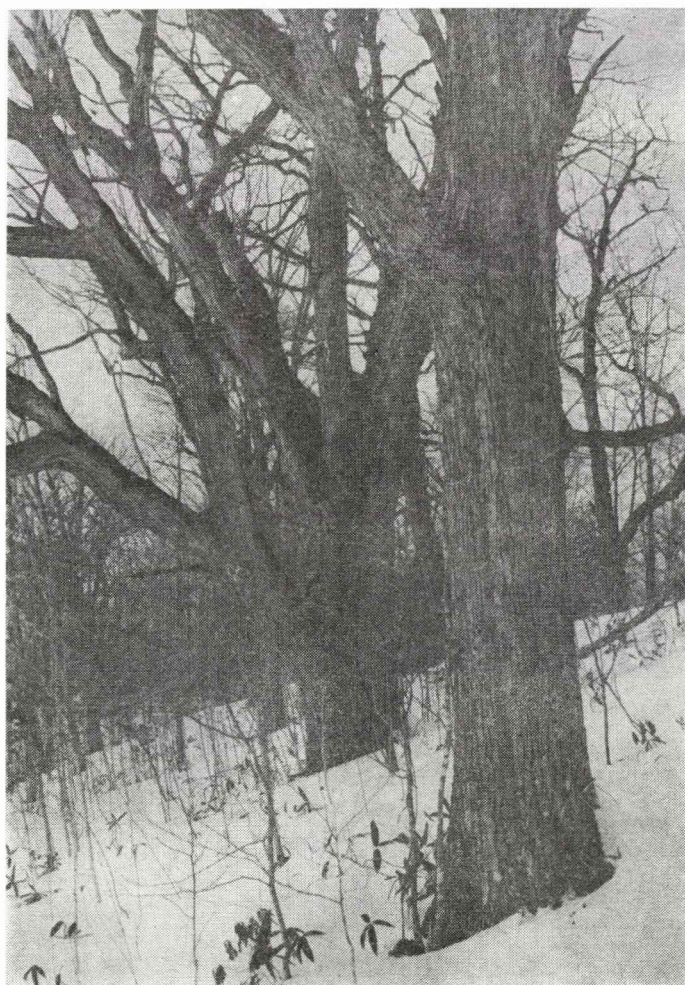
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 272

京都大学広報委員会



標茶区天然林のミズナラ ー関連記事本文 516 ページー

尾根部にはミズナラが多く、立木密度が低いために  
暴領樹はぶりようじゆ（あばれ木、根元付近から枝分れする樹木）  
になることが多い。

## 目 次

### 京都大学構内交通規制要項

の一部改正…………… 516

部局長の交替等…………… 516

栄誉（作田啓一教授）…………… 516

### <紹介>

農学部・演習林

その1（北海道）…………… 516

計報…………… 517

### <随想>

思い出

名誉教授 井上 智勇…………… 518

## ＜大学の動き＞

京都大学構内交通規制要項  
の一部改正

本学の構内交通規制は、昭和56年4月より「京都大学構内交通規制要項」に基づいて実施されているが（本広報No.211及びNo.233参照）、現状は吉田地区への自動車による通勤・通学が増加している。

昭和57年12月に安全委員会から「本学吉田地区構内交通の現状と今後の対策について」（本広報No.246参照）の調査報告があり、この趣旨にのっとり構内の安全確保と環境保持のため、駐車台数の構内別総量規制の考え方に基づく交通規制を5月1日から実施することになった。

要項改正点は次のとおりである。

(1) 要項の「特定の地域」の範囲がせばめられ、当分の間、次の市町とされた。

（京都府）京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、乙訓郡大山崎町、北桑田郡京北町、久世郡久御山町

（滋賀県）大津市、草津市、守山市、栗太郡栗東町

(2) あらかじめ定められた用務（たとえば非常勤講師の授業、学会出席など）のための入構・駐車 の便宜をはかるため、用務先部局で新たに「入構・駐車許可証（F）」を交付することにした。

## 部局長の交替等

## 薬学部長

矢島治明薬学部長の任期満了に伴い、その後任として田中久薬学部教授（薬品分析学講座担当）が5月1日任命された。任期は、昭和61年4月30日までである。

## ＜栄 誉＞

作田啓一教授（教養部）

フランス共和国政府から同国との文化交流に貢献した功績により、昭和59年4月24日同国教育功労章シュバリエ級が授与された。

## ＜紹 介＞

## 農学部・演習林 その1（北海道）

北海道演習林は標茶区<sup>しべちや</sup>、白糠区<sup>しらぬか</sup>の両区からなり、北方の森林と林業に関する試験研究及び学生実習の場として、それぞれ昭和24年と25年に旧陸軍省軍馬補充部の一部を大蔵省より所管換を受けた。面積は標茶区が1,444 ha、白糠区は880 haで、両区をあわせて19名の教職員が教育・研究及び管理運営にあたっている。

標茶区は、釧路市の北東約45km、国鉄釧網本線標茶駅から北約3 kmにあり、海拔50～140 mのゆるやかな丘陵地に広がる森林で、その周辺の大部分は牧草地である。気候は表日本型の内陸的性質を示し、年降水量は980mmで気温は厳寒期には-30℃になることも珍しくない。なお、冬期の積雪量が少ないため土壌の凍結深は70～80cmにも達して、北海道のなかでも気象条件の厳しい位置にある。この地域の天然生林は針葉樹を欠いてお

り、ミズナラ（表紙写真）、ハルニレ、ヤチダモ、ケヤマハンノキなどを主にした広葉樹林である。

自然条件の厳しいこの地域では人工林の造成のために植栽した苗木が冬の低温や強い季節風、また晩霜や早霜による被害を受けることが多く、さらにノネズミ、エゾノウサギ、エゾシカなどによる被害もあり、成林させるには数々の困難を克服しなければならない。このため多方面にわたる試験研究が続けられているが、主なものは次のとおりである。

1) 利用上重要なアカエゾマツ、トドマツ、カラマツなどの針葉樹の造林技術や、各樹種の性質を知るための基礎的研究

2) 現存する天然生林の動態を長期間追跡し、そこから得られる多くの情報をもとに広葉樹林の更新や保育の方法に関する研究

3) バンクシアマツ、ストロブマツ、ヨーロッパアカマツ、ヨーロッパトウヒなど外国産樹種による人工林の造成に関する研究



## 4) 野鼠被害防除試験

一方これらの試験研究から得られた成果を応用して経営研究林の造成がなされてきた。天然生林を伐採し植樹造林されたカラマツ、トドマツ、アカエゾマツ、外国産針葉樹、ヤチダモなどの人工林（写真）は現在374haに達している。今後は、これら人工林の育成を続けるとともに、資源として減少しつつある有用広葉樹の性質を調査・研究し、用材生産を目標にした適切な更新や保育作業法を開発し、さらに森林の生産性を高めるためにアカエゾマツやトドマツを天然生広葉樹林のなかに植栽して針広混交林の育成を目指している。

一般に北海道の森林として連想されるものは、トドマツやエゾマツのうっそうとした森林や、あるいは針葉樹に広葉樹の大木が混じった原始林であろう。ところが標茶の天然生林は過去にかなりの人手加わった広葉樹だけの明るい森林で、このような天然生林は北海道では比較的多く、これらの生産性を高めることは重要な課題となっている。なお、あわせて北海道の代表的な針葉樹であるトドマツやエゾマツを含む天然林の確保も演習林の機能を高めるために是非必要であり、この目的で設けられたのが白糠区である。

白糠区は釧路市の西北西約35km、阿寒山郡の南端に位置し、国鉄根室本線の白糠駅より北西約16kmのところにある、海拔80~300mのやや急峻な地形に森林が展開し、白糠駅のある太平洋岸から牧草地が続いており、白糠区は農地と山岳森林地帯との接点にあたる。白糠区の天然生林はトドマツと少数のエゾマツ、イチイなどの針葉樹を含む針広混交林で当区の最低気温は標茶区よりやや高く、年降水量は1360mmと積雪量も多いので植栽さ



標茶区、列状、間伐を終えたカラマツ人工林  
若いカラマツ林では、間伐コストを下げるために機械を導入しやすい方法を採用することがある。

れたトドマツなどの気象害は幾分少ない。

ここで続けられている試験研究の主なものは、天然生林の樹種構成や林木の生長過程などを調査する森林動態の追跡調査やトドマツと有用広葉樹の混交林育成のための択伐方法に関する研究、トドマツの林内更新試験などである。これらの試験研究の成果を踏まえ、現在までに経営研究林として75haの人工林が造成され、その約半はトドマツ人工林である。また森林の生産性を高めるために天然生林の択伐や樹下植栽などにより徐々に樹種の構成を変化させる作業も行われており、今後はこれらの作業を、より効果的に行う作業技術に検討を加え、生長の旺盛な活力ある針広混交林の育成に向けて、その面積を拡大する計画である。

以上が北海道演習林の概要であるが、両区ともこの地域の代表的な天然林の一部を学術参考林として保存し、調査・研究の場としている。このように本附属演習林は林学科や林産工学科のみならず森林を対象にした多方面の研究や実習に利用されるよう森林と諸施設の整備に努力している。

（農学部附属演習林）

## 計 報

岡田 壽太郎（本学名誉教授・薬学博士）

4月18日逝去、63歳。東京帝国大学工学部及び本学医

学部卒業。昭和37年本学薬学部教授就任、59年退官。そ

の間評議員（52年～55年）を併任。専門は薬品工学。

